

ARIBの動き

CEATEC JAPAN 2008が開催される

去る9月30日(火)から10月4日(土)まで、CEATEC JAPAN 2008が幕張メッセで開催されました。

このイベントは、最先端IT・エレクトロニクス総合展として注目が高く、本年は全体で約19.6万人の来場者と804社・団体/出展小間数3,121小間となりました。

会期中は、昨年同様ARIBブースに多数のご来場を頂きありがとうございました。

当会の展示ブースでは、以下の展示活動を行いました。

- (1)40インチディスプレイを利用し、DVD放映によるARIBの活動紹介
- (2)42インチディスプレイを利用し、WebサイトからのARIB標準規格の閲覧
- (3)パネルを使用した通信・放送の幅広い研究成果等の紹介
- (4)関連資料の閲覧及び配布
- (5)アンケート調査

アンケート調査票には過去最高の約2,435人の方の回答をいただきました。ご協力大変有難うございました。アンケート調査の集計結果は後日ARIB機関誌(No.62平成21年1月発行)に掲載する予定です。



ARIBブースの賑わい



アンケート調査に協力して頂く来場者

「地域WiMAX推進協議会」設立総会が開催される

去る10月16日に「地域WiMAX推進協議会」の設立総会が開催されました。

有・無線を問わず、ブロードバンドは社会経済活動を支える重要な社会インフラであり、地域においても定住促進、企業誘致等の地域の活性化、防災、介護支援等の福祉、医療体制の確保等の地域の安全・安心を実現するために必要不可欠なものとなっています。

特に無線によるブロードバンドシステムは地域の特性やニーズに応じてネットワークを柔軟かつ効率的に構築できることから、地域において、今後ますます利活用が進むことが期待されており、新しい技術の開発も進展しています。

地域WiMAXは、このような無線によるブロードバンドを実現する地域密着型のシステムとして、本年制度化され一部地域においてまもなくサービスが始まろうとしています。

こうした中で、地域におけるデジタル・ディバイドの解消、地域の公共サービスの向上等、地域の公共の福祉の増進に資する地域WiMAXの普及促進を図るとともに技術的諸課題について検討を行い地域WiMAXの健全な発展を推進するため、この度、「地域WiMAX推進協議会」が発足いたしました。

設立総会は来賓の桜井 俊総務省総合通信基盤局長からのご祝辞があり、土居 範久発起人代表から地域WiMAX推進協議会設立の趣意書の説明が行われました。

その後、地域WiMAX推進協議会の規約を定めて、役員を選任を行いました。

役員は会長に土居範久中央大学教授、副会長には三友仁志早稲田大学院教授、顧問には安田靖彦東京大学名誉教授・早稲田大学名誉教授が選任されました。

引き続き地域WiMAX推進協議会規約に従い会長が議長となって総会の議事を進め、13名の幹事を選任し幹事長に三友仁志早稲田大学院教授が選任されました。

続いて幹事会設置要綱と部会の設置要綱を定めて、技術部会長には山辺幸保（株）シー・ティー・ワイ取締役技術部長、普及促進部会長には伊藤直人（株）ハートネットワークメディア事業局長が選任されました。

最後に部会メンバーの募集と第一回部会開催に向けての準備の説明があり、設立総会を閉会いたしました。



「地域WiMAX推進協議会」設立総会



桜井 俊 総務省総合通信基盤局長
からのご祝辞



土居範久中央大学教授のご挨拶



三友仁志早稲田大学院教授の
ご挨拶



安田靖彦東京大学名誉教授・
早稲田大学名誉教授のご挨拶

第150回技術委員会（通信分野）が開催される

第150回技術委員会（通信分野）が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時 平成20年10月22日(水) 午後2時から3時10分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

- (1) 地域WiMAX推進協議会の設立について報告がありました。
- (2) ICT国際協力部ワイヤレス部会活動報告について報告がありました。
- (3) 3.9世代移動通信システム及び2GHz帯TDD移動通信システムの導入に係る公開ヒアリングの開催について説明がありました。
- (4) BS放送受信システムから携帯電話への干渉の防止について説明がありました。
- (5) Aバンド放送事業用固定回線のM/Nバンドへの周波数移行に伴う照会相談業務の対応について報告がありました。
- (6) 地上デジタル放送等における「緊急地震速報」の速やかな伝送等に向けた技術的検討の推進について説明がありました。

電気通信・放送
行政の動き

「デジタルテレビ放送に関する移行状況緊急調査（平成20年9月）」の結果

（平成20年10月14日総務省報道発表）

総務省では、本年9月時点におけるテレビ放送のデジタル化に関する認知の状況や地上デジタルテレビ放送対応受信機の普及状況等を把握するため、「デジタルテレビ放送に関する移行状況緊急調査」を実施しました。調査の概要及び結果は、以下のとおりです

今回の調査結果では、地上アナログテレビ放送が終了する時期についての認知度が75.3%となっているほか、地上デジタルテレビ放送対応受信機の世帯普及率が46.9%であるなどの調査結果が示されています。

総務省では、この調査結果を踏まえて、引き続き地上デジタルテレビ放送の具体的な受信方法、デジタル化の意義等も含め、きめ細かな情報提供活動に取り組んでまいります。

なお、詳細は<http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/081014_3.html>を参照願います。

「デジタルテレビ放送に関する移行状況緊急調査（平成20年9月）」の調査結果

1 地上アナログテレビ放送が終了する時期（年を記入する方式で回答）

- 1)2011年（平成23年） 75.3%
- 2)2011年（平成23年）以外 11.8%
- 3)わからない 12.9%

2 BSアナログテレビ放送が終了する時期

- 1)地上アナログテレビ放送と同時期に終了することを知っている 66.7%
- 2)地上アナログテレビ放送と同時期に終了することを知らない 29.9%
- 3)わからない 3.4%

3 地上アナログテレビ放送終了の認知経路（対有効サンプル数1,265に対する%。複数回答可）

- | | | | |
|--------------|-------|---------------|------|
| 1)テレビ | 86.0% | 7)友人・知人 | 5.1% |
| 2)新聞 | 32.1% | 8)ポスター・パンフレット | 3.6% |
| 3)大型家電量販店の店頭 | 10.8% | 9)地域の電気店 | 3.0% |
| 4)雑誌 | 6.4% | 10)インターネット | 2.6% |
| 5)ラジオ | 6.2% | 11)市町村の広報誌 | 2.3% |
| 6)家族 | 5.5% | 12)イベント会場 | 0.2% |

4 地上デジタルテレビ放送受信機の保有状況

- | | | |
|---------------|-------|---|
| 1)保有している世帯(*) | 46.9% | } (内訳) 地上デジタルテレビ放送を見ることができる世帯 37.7%
地上デジタルテレビ放送を見ることができない世帯 9.2% |
| 2)保有していない世帯 | 50.6% | |
| 3)わからない | 2.5% | |

* デジタルテレビ、デジタルチューナー、デジタルチューナー内蔵録画機又はケーブルテレビ専用機器のいずれかを保有している世帯（地上デジタルテレビ放送が視聴できるパソコンや携帯型・車載型テレビだけを保有している場合は含まない）

編集後記

10月11日に「横浜オクトーバフェスト2008 in 赤レンガ倉庫」に行って来ました。オクトーバフェストはドイツで毎年9月上旬から10月初旬まで16日間にわ

たって開催される世界的に有名はビール祭りです。横浜は2009年に開港150周年を迎えます。開港当時からドイツとゆかりの深い横浜では開港150周年を記念してミュンヘンで開催されるオクトーバフェストにちなんだ横浜オクトーバフェスタを10月3日から13日まで開催していました。

タルバッハ・ブアム楽団の音楽とおいしいビールでひと時を過ごしました。

(澤井 利和)



タルバッハ・ブアム楽団



プロースト (乾杯)



左：ヘーフェヴァイツェン
(バナナの様な味)

右：シュパーテンオクトーバー
フェスタビア

[ページの先頭に戻る](#) ▲